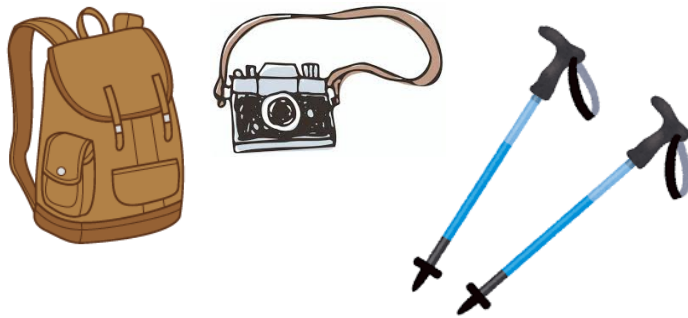
	2022年(令和4年)3月28日発行 No. 17 公益社団法人 日本山岳会 山形支部 支部長 鈴木 理夫 事務局 〒997-0752 鶴岡市湯田川乙 35 河口 昭俊 方 メールアドレス : ymg@jac.or.jp 編集 : 日向 稔也
---	---

目 次

1	支部長あいさつ	No.11637	鈴木 理夫	P1
2	追 悼 金森 茂三郎さん 佐藤 節子さん	No. 7446 No.12340	佐藤 淳志 佐藤 映子	P2 P3
3	活動報告 2022 学校から見える山 公益清掃登山 支部晚餐会 古道調査・六十里越街道	No.16287 No.15137 No.16798 No.16462	工藤 正年 野堀 嘉裕 沼部 ひろみ 日向 稔也	P4 P7 P8 P9
4	「民の山」金峯山と千歳山	No. 7734	木村 喜代志	P10
5	山形支部及び会員活動記録	No.15525	河口 昭俊 (事務局長)	P14



支部長あいさつ

会員番号 11637 山形支部 支部長 鈴木理夫

昨年4月に支部長の任に就いて、およそ1年が経過しました。コロナの感染拡大のため総会を書面決議に変更せざるを得ず、会員の皆様に正式な挨拶が出来ませんでしたので、この場を借りてご挨拶と今年度の振り返りをさせていただきます。

昨年前半の「それぞれの上高地」までは、コロナの影響で役員会、「アルパインフットビデオクラブ」の写真展以外は予定された事業の中止を決めざるを得ませんでした。ただ、「学校から見える山」及び「六十里越街道古道調査」は担当者を中心に進めて、今年度はこの2つの取組みを軸にして支部の活動を展開することができました。前者では山形市の大岡山からの展望図を完成させ、麓の四校の小学校へ3月に寄贈しました。山形支部の多士済々な会員の存在や、いろいろな方とのつながりが結実した誇らしい出来上がりになりました。11月の支部晚餐会の初日に晴天の中、大岡山に登りその展望を楽しむことが出来たことは幸いであり、私自身も今まで登っていなかった里山の魅力について再認識する契機となったことを付け加えておきます。昨年度開催できなかった支部晚餐会を、コロナの感染状況が落ち着きを見せた間隙をぬう形で開催できたことも幸いなことでした。



「六十里越街道古道調査」の活動では、年間計画に入っていなかった湯殿山～志津～四ツ谷川の古道調査を9月末に10名の参加を得て、実施することが出来ました。強い雨から晴天へと天気に変化する中、紅葉の山を楽しみながら調査活動を行いました。途中、「あけび街道」と名付けた方がいいのではと思ったほど、道の両脇にあけびがたわわに実る光景は、私はそれまで見たことがなく山の恵みの豊かさが印象に残るものでした。

支部長という責任の重い役割を担うことになりましたが、振り返ってみると、この一年間楽しいことが多かったように感じます。日本山岳会山形支部に入って良かったと思えることが多ければ、組織は維持できるのではないかと考えています。会員の減少や高齢化、行事への参加が役員中心である等の課題を抱えながらも手応えを感じたこの一年でした。皆様のご協力に感謝いたします。

私の場合日本山岳会への入会はかなり前になりますが、実際に山形支部の活動に参加するようになってから、それほど年数が経過していません。上高地の「山研」や、本部の「ルーム」にも行ったことがなく、まだまだ全国組織のいろいろなメリットを楽しむ余地があると思っています。

今後も支部活動の一層の充実を目指したいと考えていますので、活動へご参加の程よろしく願いいたします。

会員番号 7446 佐藤 淳志

私が金森さんと初めてお会いしたのは1962年頃。当時、酒田市体協組織「酒田山岳会」の定例集会と記憶しています。

あの大きな身体から、低い声で静かに淡々と「山行報告」をする姿が印象的で、内容は四季を問わず殆ど単独行で、毎週のように山に入っているようでした。当時の山岳会長は北大山岳部OBの方でした。私は一般の会員の集会とは別に「登山講習」と称して会長宅に通っていましたが、そこでも金森さんと時々一緒になった記憶があります。

私が日本山岳会に入会してから、旧八幡町が鳥海山観光開発計画（スキー場、ゴルフ場）を打ち出したため、1990年、「日本山岳会自然保護全国集会」で自然保護の立場からその内容を発表しました。私は本部直属の自然保護委員となって、1997年まで活動していました。そんな中で金森さんはよく内容を理解して下さい、自然保護全国集会への参加や、いろいろな相談にも乗って頂き私は大いに助けられました。

本部の保護委員会がテーマとして取り組んでいた猛禽類（イヌワシ）調査では、全国で珍しいイヌワシの人工巣棚を鳥海山麓120m岸壁に設置しましたが、その「産座」は金森さんに記念として作っていただき、今でも繁殖期になると利用されています。

金森さんは山林の持ち主で、定年後「森づくり」に取り組んでおられ、日本林業協会に所属し、杉植林を間伐。針葉樹と広葉樹林「混合林」の植生を目指し調査研究や作業に励んでいて、我々を案内し説明して下さいました。

ある日、金森さんから電話で「中村純二さんが酒田に来るので一緒に会食をしましょう」と誘われ、私は驚き是非にとお願いしました。中村氏と言えば、東大名誉教授で第一次から第三次まで南極観測隊員、又、登山家としても有名な方です。実際お会いしてみると温和でやさしい口調でお話しされ方でした。お陰で南極観測の裏話や高層大気物理学者だけに、オーロラ観測や流星群のお話など楽しくお聞きする機会を得ました。

中村氏はその後何度か金森さんを訪れ、育成林を視察、我々が調査で取り組んでいるイヌワシ生息エリアにも足を運んでくれました。しかし、中村さんは2020年94歳で永年会員として逝去なされました。

年代的な事もありますが私は60年近く金森さんと付き合いきて、本格的に登山したことは一度もありません。しかし、イベントや懇親会に必ず参加下され、アドバイスやご本人の若い時の精力的な登山活動を語ってくれました。当時23歳での日本山岳会への入会ですから納得です。年次晩餐会にも毎年欠かさず出席され、県外会員とも多く親しかったようです。自動車運転免許を返上し、近年まで元気に町内を散歩する姿が脳裏に浮かびます。



金森さんは前列左から4人目 2015年度支部晩餐会にて（温泉温泉 2015年11月14日）

「天空海闊」この言葉が良く似合う人でした。大河の源流や砂漠など壮大で果てのないものが好きでした。もう二度と手に入れることができない宝物をまた一つ喪くしてしまっ、私は行き暮れたように寂しいです。

40 年も前、私の山狂いを心配した母が「女学校の同級生にももの凄いな山女がいる」と紹介してくれたのが節子さんでした。当時の節さんは山シャツにニッカ一ポッカー、前ウエストに手拭を折りたたんで挟んで、それはそれは颯爽としていました。早速私も手拭を下げました。

県内、東北、新潟、北関東、北アルプスの山々へたくさん連れて行ってもらいました。節さんは全国の主要な山だけでなく地方の中級の良い山に精通していてその知識、記憶力は抜群でした。北海道から九州まで日本の山を登りまくり、中国・インド・ネパール・アラスカなど海外の山にも足を延しました。70 歳を過ぎて飯豊ダイクラを下り、旭岳からトムラウシ山まで単独縦走するという怪物的体力でした。その後は「平地滑走」と称して塩の道や祈りの道といったウォーキングを楽しみ、低山のハイキングや旅を楽しみ、読書を楽しみ、花を楽しみ・・・尽きることのない好奇心を友にして悠々自適の暮らしでした。豪快で朗らかで世間の常識にとらわれることなく、いつもあるがまま思うがまま自由に伸び伸び生きていました。人の気持ちを推し量っておもんはばかりってばかりいる私にとって、その自在さはほんとうに羨ましいものでした。

節さんが残した文章の最後に「今まで生きて経験した風物を死ぬまで心に残し抱いて逝きたい。」とありました。まさにその通りだったと思います。亡くなる前の晩、介護員さんに「県内の山ではどの山が好き？」と聞かれて「鳥海山だかの」と。滝の小舎で歌ってくれた「鳥海小唄」が懐かしい。

95 歳 歳に不足はないけれども、ずっと「いて」欲しかったと思います。



二王子岳山頂 (1420m) にて (1991 年 10 月 6 日)

佐藤節さんは右から 2 人目

2022 学校から見える山

会員番号 16287 工藤 正年

大雪だったこの冬の寒さも和らいだ 3 月 3 日、山形市立楯山小学校の校庭からは大きなプリンのような大岡山がすぐ近くに見えた。今年度の「学校から見える山」はこの大岡山から見た展望図である。今日は大岡山から一番近い楯山小学校で、「2020 学校から見える山」を子どもたちに贈呈する日である。新型コロナの感染拡大により子どもたちに直接手渡しできるかどうか心配されたが、楯山小学校の教頭先生と直前まで連絡を取り合い、5 年生を対象に贈呈式をすることになったのである。

お雛様が飾られた校長室で、笑顔で迎えてくれた校長先生が全校生で大岡山登山をしていることなどを話してくれた。会場の音楽室には 5 年生の子どもたちが待っていてくれた。校長先生のお話の後、鈴木支部長から児童への贈呈が行われた。一人一人が半透明なケースから展望図を取り出して驚きの表情で見入っている。今回の「学校から見える山」は折り畳み式の展望図である。両手をいっぱい広げて展望図を開いて見ている子どももいる。木山由紀子様による朝日連峰から月山、葉山にかけて連なる残雪をいただいた山並みが鮮やかに描かれている。粕谷俊矩さんから、すべての山には名前があり名前を覚えて仲良くなってほしいと、語りかけるようにお話があった。子どもたちは展望図を見つめ時折うなずきながら聞いていた。児童代表から、来年の全校大岡山登山では、下級生に山の名前を教えてあげたいとのお礼の言葉があった。コロナのために歌えないので、CD で校歌が流れた。「つつじいろどる大岡山」の歌詞がある校歌だった。

今年度の「学校から見える山」は、粕谷さん、野堀さん、木村さんと私工藤の 4 名が担当することになった。木山様からラフスケッチが届いた 8 月、担当の 4 名に支部長と河口事務局長が加わり、第 1 回の編集委員会を行った。会場にお借りした粕谷さん宅には、事典やパンフレットなどの多くの資料がそろっていて、それをもとに山名や標高を書き入れる作業を行った。3 回目の編集委員会では、表紙の図柄やケースの材質などを決定した。この間、北星印刷（株）には何度もお伺いして細部にわたる相談やお願いをすることになった。社長の岩間様には、子どもたちに喜んでもらうためにと協力を惜しまずに応えていただいた。また、野堀さんのご尽力により、今年度もマエタテクノロジーリサーチファンド様から多大なご支援をいただくことができた。

作品の仕上げと並行して贈呈についての相談を進めた。大岡山から近い楯山、高瀬、千歳、鈴川の各小学校の 5 年生と 6 年生に贈ることにした。山形市役所で荒澤教育長様に直接お話をさせていただき、その場で快諾をいただくことができた。担当の黒沼係長様、楯山小学校の渋谷教頭先生とは何度も相談させていただき、贈呈式を迎えることになったのである。

贈呈式の後、支部長と事務局長、野堀さんが県庁のみどり自然課を訪ね、山形県を会場として開催される山の日に合わ



せた「学校から見える山」の活用などについて話し合った。これからの進展も楽しみである。



2022『学校から見える山』プロジェクト経過報告

2021.06.12 山形支部新役員体制及び役員会にて「学校から見える山」プロジェクトの担当者を決定 ⇒野堀嘉裕・粕谷俊矩・木村喜代志・工藤正年

2021.06.12 野堀さんから木山由紀子さんへの依頼状を郵送。監修を佐藤要さんに依頼する

2021.06.14 佐藤要さんより担当の野堀さんに、パノラマ図の視点を山形市の大岡山を候補にしているとの連絡あり。

2021.06.19 佐藤要さんから担当の粕谷さんに電話で、大岡山に登って調査したところ、朝日連峰の御影森から朝日連峰主稜線、月山、葉山までの展望があり、中景に白鷹丘陵を入れれば理想的なパノラマになるとの連絡あり。支部からの了解をもらえば早速ラフスケッチの作成に入りたいとのこと。メールで関係者、担当者で連絡を取り、佐藤要氏のご意見に沿って進めることにする。

2021.08 粕谷さんに佐藤要さんからラフスケッチ（初稿）が届く 編集会議の日程調整

2021.08.17 第1回編集委員会『学校から見える山（5）朝日連峰と月山』（仮題）編集作業

出席者：鈴木支部長・河口事務局長・野堀・粕谷・木村・工藤

場所：（寒河江市）粕谷氏宅で

内容：(1)ラフスケッチの確認 ①山名と標高の確認 ②市町村、河川、主要道路、集落の名称を確認 ③記載以外で必要と思われる山名、標高、読み方を記入する ④歴史上重要な峠名を記入する ⑤山形百名山はできるだけ記載する ⑥山の姿を強調したいものは付箋を付ける ⑦2部作成し、一部を監修者の佐藤要氏に届ける

(2) 装丁について ①文庫本サイズ蛇腹折とする ②表紙と裏表紙について

(3) 発行部数と配付先 野堀さんの資料⇒山形市内の小学生5・6年生に

(4) 印刷所の選定⇒北星印刷に 野堀さんから依頼していただく

2021.08.26 粕谷さんに佐藤要さんから2校届く。粕谷さんによる校正

2021.09.01 北星印刷（株）にて岩間奏子さんとの相談 野堀・粕谷・工藤で

装丁について：①文庫本サイズ ②折り畳みにして表紙と裏表紙をつける ③紙質について（できれば撥水のもの）

見積依頼（約30万円を想定）

2021.09.28 北星印刷株式会社より「見積書」が届く 担当者間でメールで意見交換

2021.10.16 日本山岳会山形支部役員会で協議 今後の進め殻について担当者で打合せ

来年度の「山の日」のイベントでの活用等を考慮し、学校への配布を4校程度に

2021.10.20 北星印刷（株）岩間さんと 野堀・工藤 見積もりに沿って依頼

2021.11.10 山形市教育委員会へ依頼に 荒澤教育長・高橋課長・黒沼係長 野堀・工藤

①配布先を楯山小学校・高瀬小学校・千歳小学校・鈴川小学校の4校に ②楯山小学校で贈呈式を予定

2021.11.17 北星印刷（株）から初稿が届く

2021.11.22 第2回編集委員会 寒河江市粕谷氏宅で

①初稿原稿の校正 山名や標高及び地名等について ②イラスト全般について 紫ナデと小朝日 ③表紙と裏表紙について ③これからの進め方について

2021.11.26 北星印刷で岩間さんと監修の佐藤さんと 野堀・工藤

初稿原稿の校正について 表紙と裏表紙について（支部長のあいさつ文）

2021.12.06 北星印刷から2校が届く（支部長・粕谷・野堀・工藤あてに）メールで意見を取りまとめることに

2021.12.13 2校について本編のイラストについては問題なし 表紙について寄せられた意見について粕谷と工藤で検討 北星印刷にいくつかの表紙の試作をお願いすることに。

2021.12.13 粕谷と工藤で北星印刷に行き、岩間さんにいくつかの表紙案の試作を依頼。併せて封筒（ケース）について相談し見積もりをお願いする。

2021.12.20 北星印刷から表紙と裏表紙の試作が届く

2021.12.23 北星印刷から封筒（ケース）の見積もりが届く 12.28 編集委員会を開くことに

2021.12.28 第3回編集委員会 新庄市ゆめりあ 【豪雪のため延期】

2022.01.09 第3回編集委員会 新庄市民プラザ

①表紙のデザインについて ②ケースをクラシコトレーシング素材にすることに ③頒布価格を1000円にすることにし裏表紙のISBNの変更

2022.01.15 山形市長あてに「寄附申込書」提出

2022.01.17 山形市教育委員会黒沼係長と今後の進め方について確認・山形市立楯山小学校渋谷教頭先生と相談して進めることに・コロナの状況を見ることに

2022.02.02 「2022 学校から見える山」完成。北星印刷（株）より配送・工藤宛 500部と河口事務局長宛に500部ずつ。

2022.02.02 山形市立楯山小に電話・贈呈式を2月28日、3月2日、3日のいずれかにすることに・山形市教育委員会に連絡・学校で贈呈式ができない場合は3月3日に教育長に贈呈することにする。

2022.02.07 山形市立高瀬小学校に完成品を届ける。

2022.02.08 贈呈の方法と日程について楯山小学校と山形市教育委員会、支部長及び編集担当者の日程調整・贈呈日を3月3日とする。贈呈式は、①学校で5年生に ②学校で校長先生に ③山形市役所で教育長に ①の場合は支部長、野堀さん、粕谷さんと工藤 ②と③の場合は支部長、野堀さんと工藤

2022.02.22 贈呈式について：山形市立楯山小学校教頭先生から、蔓延防止等特別措置の適用解除を受けて上記の①による贈呈式を行うことにしたいとの連絡がある。山形市教育委員会黒沼係長への報告と当日の出席確認をし。他の学校への贈呈物については黒沼係長にお渡し届けていただくことにする。

2022.02.26 山形支部役員会で報告

2022.03.03 山形市立楯山小学校で贈呈式（予定）

①校長先生のお話 ②支部長から贈呈 ③月山・朝日連峰のお話（粕谷さん） ④児童代表の言葉

公益清掃登山：鳥海山滝の小屋－河原宿

会員番号 15137 野堀 嘉裕（山形支部顧問）

11月2日、例年秋に「滝の小屋芋煮会」として開催していた山形支部の行事、新型コロナウイルス感染予防の観点から日帰りの「公益清掃登山」という形で行いました。残念ながら参加者による芋煮会は実施しないで昼食持参として実施しました。コースは鳥海山滝の小屋駐車場から河原宿までの往復です。当初の参加希望は24名でしたが当日の参加者は8名でした。

早朝、庄内平野は曇天で今にも雨が降り出しそうな空模様でした。鳥海山へ向かって車で移動中、NHK ラジオ第一放送土曜日朝の「ヤマカフェ」を聴いていると、滝の小屋管理人の菅原さんが生中継で石丸謙二郎さんと話しているのが聞こえてきました。放送の中で「滝の小屋は快晴で雲海の上、広葉がとても綺麗です」との会話が聞こえてきました。登山意欲がわいてきます。車道を登って滝の小屋駐車場に近づくと、ラジオ放送のとおり雲海の上の鳥海山の広葉が見えてきました。10時集合でしたが、多くの参加者は滝の小屋で前日から待機しています。清掃の準備をして出発です。



滝の小屋で参加者全員集合



河原宿に向かって八丁坂を登る



痛みがすすむ河原宿小屋



強風を避けて昼食をとる



小屋前で集合写真です



下山後、駐車場で清掃してきたごみを集めます。登山道ではごみはあまりありませんでしたが、駐車場や小屋の周辺で多くのごみを拾ってきました。登山者マナーの低下が気になります。コロナ禍で久しぶりの山行は筋肉痛の方もいたようです。

太古の昔、地殻変動が浪漫を産む・2021 年度支部晩餐会

会員番号 16798 沼部 ひろみ

日本山岳会に入会して初めての支部晩餐会に参加させていただきました。両日の日中は山形百名山、大岡山と三吉山の計画があります。2つ共初めて登る山なので楽しみです。

11月6日、山形市楯山地区のシンボルとして親しまれた「大岡山」へ。安定感のある台形の山容が印象的な山だが、登山口から急登がジグザクに山頂までこれでもかと続き、大いに汗をかきました。山頂からはパノラマビュー、月山・葉山の眺望が素晴らしい。天気も良いので大勢の老若男女で大賑わいでした。



晩餐会は上山温泉「月岡ホテル」。参加人数15名、コロナ禍の宴会ではありませんが、各自わきまえた振る舞いで臨んでいます。支部長挨拶、乾杯と時間と共に場も和み、愉快的な話で顔がほころんできました。恒例の『山用品・書籍のオークション』では各々値を釣り上げ熱が入る。今では手に入れるのが難しいレア物もあるので大いに盛り上がりました。2次会は部屋に戻り、小野寺会員の興味深い話一同頷いたり笑ったりと、時間を忘れて聞き入りました。

翌11月7日、葉山深山信仰の山と知られている上山市「三吉山」へ。整備された森林帯をしばらく歩いて行くと視界が開け、大規模なガレ場（岩海）が広がる。「大昔、地価のマグマが地表に噴出、その際に岩が崩壊し永年の風化により今の形に。氷河期の名残とされる珍しい光景、云々。」と木村会員より講話をいただきました。三吉山神社からの眺めも素晴らしく、吾妻・飯豊・朝日とぐるっと見渡せ晩秋の山々を眺めて堪能できました。



昨日の大岡山もそうだが奥羽山脈沿いの里山は形状が似ている。山に登る度、山の成り立ちを考える2日間でした。

古道調査・六十里越街道

会員番号 16462 日向 稔也

日本山岳会設立 120 周年の記念事業として始められた古道調査。全国から 120 の古道を選び、データベース化して全国に発信しようという事業で、120 周年を迎える 2025 年に公表しようという計画です。山形支部として調査する古道は現時点で次の 3 つ。六十里越街道、蔵王古道の山形県側、そして道智道です。まだ 120 全部は決定しておらず、流動的な部分も相当あるようで、山形支部の調査範囲が最終的にどうなるかは見通せていません。調査内容は、GPS データを取り、各ポイントの写真撮影をすること、さらに得られたデータを基にして説明文・紹介文を書くというものです。支部によっては、それぞれの古道担当チームをつくり、一斉に取り組んでいるところもありますが、私たちは毎年ひとつの古道に取り組むことにしました。六十里越街道（2021 年度）、蔵王古道（2022 年度）、道智道（2023 年度）の順、長丁場です。

9 月 24 日（金）、10 名の会員の参加のもと、六十里越街道の現地調査です。一日目は湯殿山ホテルの跡地から志津温泉まで約 7 km 余の行程。生憎の雨天の中、湯殿山ホテル跡から行動開始です。この辺りは立派なブナ林が残っており、好天の時に歩いてみたい所です。調査のためにちょっとした工夫もしました。プラスチックの板に地点名を記入し撮影し、次にそのボードを外して写真を撮るといった方法、工事現場の記録のとり方を真似しました。ところが、この雨。カメラを取り出すのもためらわれ、ボードが濡れて文字も書きにくく苦戦しました。



庄内と内陸の境となる大岫峠（1140m）までは登りで、後は下りです。途中増水した沢の渡渉を何度か繰り返し、志津に着きました。宿舎の志津温泉清水屋旅館での懇親会。新会員を迎え、また久方ぶりに顔を合わせたこともあり山菜料理を肴に大盛り上がりです。

2 日目は快晴。志津温泉から月山ダムまでの約 5.5 km の行程です。とは言っても、行程終盤の四ツ谷川は橋が崩落して通れないとのこと、その崩落の様子もチェックすることになります。

宿舎から弓張平の公園を通り南下する下りコースです。工事現場方式も順調です。この辺りは旧国道 112 号線を歩いたり横切ったりして進みます。思いがけない恵みもありました。アケビの大収穫です。藪に分け入り、立派なアケビを見つけ皆さんご満悦でした。快調に四ツ谷の集落跡（今では供養塔だけしか残っていません）を過ぎ、四ツ谷川に着きました。周辺を見て回りましたが、岸が大きくえぐられ、土や岩がむき出しになったまさに崖です。氾濫のすさまじさが想像できます。橋が架かっていたポイントを確認しました。ここまでです。この先は、月山湖から対岸まで、別日程で歩くことになります。



この調査活動に着手するまでに、山道の維持、整備にかかわっている方々にお会いしました。観光振興、信仰、自然保護、歴史の掘りおこし等々で活動されている方々です。山との出会いは山とかかわっている人との出会いでもあると実感しています。この出会いが広がり深まることを楽しみにしています。

「民の山」金峯山と千歳山

会員番号 7734 木村 喜代志（山形支部顧問）

就職を機に56年間住んだ庄内、鶴岡から山形に引っ越して3年が過ぎた。鶴岡では自宅の庭から朝な夕なに眺めていたのが金峯山であった。山形で入居している高齢者向けコンドミニアムでの一日は窓越しに千歳山を見て始まる。双方の山は500mにも満たないが、気が向けばふらり出かける低山逍遙の舞台であり、地元民にとっては生活に溶け込んでいる民の山である。

<金峯山 471m>

朝日連峰北西端から北に伸びてくる尾根がある。摩耶山、湯ノ沢岳、母狩山、鎧ヶ峰と続き金峯山（きんぼうざん）で庄内平野に吸い込まれる。これらの山々は、かつて修験道の舞台であり、中国廬山への憧れからか五老峰の呼称も残っている。

城下町鶴岡の街づくりの際には、金峯山と母狩山は鳥海山と共に「山当て」、遠望できるように町割りがされていたという。金峯山は小学校の遠足に組み込まれ、料亭の盃には「金峯在杯」と記されるなど、鶴岡の人々にとっては時を越え、暮らしと重なる日常生活に溶け込んだ山である。人々は親しみを込めて「きんぼやま」と呼ぶ。

金峯山は、671（天智10）年、修験道の開祖と仰がれる役小角（えんのおずぬ）によって開山、金剛蔵王権現を祀ったといわれている。古くは山頂を「仏」、麓の丘陵を「蓮華」に見立てて蓮華峰、あるいはハスの八枚の花弁を放射状に並べたものを「八葉」ということから「八葉山」とも呼ばれていた。承暦年間（1077～1080）、丹波守盛宗が出羽国に移るとき、奈良吉野の金峯山（きんぶせん）を勧請してから金峯山（きんぼうざん）と改めた。江戸時代には庄内藩の祈願所として栄え、神仏習合時代には母狩山から摩耶山まで真言宗の修験道場となった。そして、明治の神仏分離にあたり1870（明3）年に御嶽（みたけ）神社、1877（明10）年には金峯神社に改称した。

車道終点の中の宮社務所から登り始めると、地面が金粉をまいたようにキラキラと輝いているのが目に留まる。砂金と間違われやすい金雲母（きんうんも）で、この付近の花崗岩に含まれていたものが剥がれたものである。金峯山の地質は硬い花崗岩で「金峯石」と呼ばれ、庄内藩鶴ヶ岡城の石垣、近郷集落の墓石に用いられたと聞く。参拝路は修験の山ということもあり、標高に似合わず急坂、露岩が続く。老杉の根で持ち上げられたのか不規則に傾き、苔生す石畳が現れると山頂で、入母屋造りの重層建築の金峯神社本殿、蔵王権現堂が見えてくる。



金峯神社 入母屋造りの本殿

471mの山頂の北側を回り込むと丸太のベンチが設置された一望台で、三等三角点（459m）がある。その先に庄内平野、鶴岡の市街地が飛び込んでくる。西に高館山、北に長い裾野を伸ばした鳥海山、北東に丁岳、立谷沢の奥に下柳沢山、そして虚空蔵岳から続く月山、湯殿山まで望まれる。

金峯山は出羽三山や鳥海山と共に神仏が住む霊山とし

て崇められて来た。山麓の青龍寺から山頂までの参拝路には江戸時代に崇敬者から寄進されたスギが鬱蒼と茂り、その木蔭に林立する墓石、石碑が、時を越え厚い信仰を物語っている。

金峯山近在で死者が出ると、その魂はこの山にしばらく留まり家族を見守るといふ。そして、年月を経て穢れが薄れて無くなると背後の深山、月山に昇っていくという言い伝えが残っている。また、庄内には「モリ供養」*、里に近い山や森で死者を供養する伝統行事が、鶴岡市清水の三森山や庄内町三ヶ沢などで見られる。月遅れの盆明けに集まった靈魂を里山、近年では寺で供養する行事である。

*2000年12月「庄内のモリ供養の習俗」は文化庁の「記録作成等を講ずべき無形の民俗文化財」に選定された

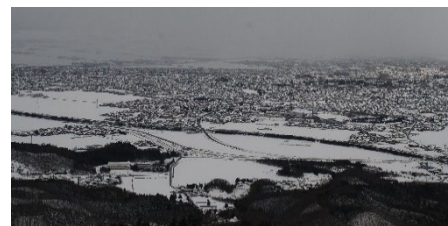
登り口は東に青龍寺口、中の宮で青龍寺口と合流する滝沢口、北の金峰少年自然の家口、西に「女人禁制」の石碑が残る湯田川（藤沢）口などがある。青龍寺コースと並走して中の宮の社務所前まで車道が通っていることもあり、季節を問わず登山者、参拝者に会わないことはないほど、地元の老若男女が慣れ親しんでいる「民の山」である。



母狩山に続く稜線直下の作業道路

母狩山に続く稜線直下の作業道路入口が見える。ここは登りが容易なうえ、途中から参道の痩せ尾根の東側に入るため風は極端に弱まる。作業用道路を進むと間もなくスギに代わって真直ぐに伸びた灰白色のブナの静林に代る。ブナという言葉から意識する標高を大きく下回っているが、山麓の人々から警戒されている「金峯嵐」の寒風によって運ばれてくる降雪によるものだろうか。山頂が近づくと山頂から東面に三角形の雪の斜面が広がる。そして、母狩山へと続く尾根には、小さいながらもいつも雪庇が形成されている。

降りスキーは本殿の脇を頂点として広がる三角形の斜面を、登ってきたトレースに向かって一気に滑り込む。後はトレースに沿って滑るだけである。登り口の随神門、中の宮社務所まで10分とかかる。随神門から青龍寺までの参道雪面は一段と広がる。直ぐに小さな登り返しがあるが、ここを除けば滑りが止まることはない。金峯山は荒天時限定ではあるが静かな貸し切りのスキーフィールドでもある。



一望台からの鶴岡市街

<千歳山> 471m

山形盆地の東西に、背後の大きな山々の前に丸みを帯びた円錐形の山がいくつも見える。特に、朝霧に霞み、もこもこと重なり合う風景は童謡にでも歌われるような微笑ましくなる光景である。庄内のゆったりとした波打つ山並みとは明らかに違う風景である。山名を確か

めてみると、東側には千歳山をはじめ大森山、大岡山、戸神山など、西側には富神山、文珠山、少し離れて経塚山などを辿ることが出来る。なかでも千歳山は、大きさもさることながら市のシンボルに相応しい端正な円錐形をして鎮座している。

千歳山をはじめこれら対称的な傾斜面を持つ美しい山容は火山に起因している。とは言っても、噴火で流れ出たマグマによって形成された山ではない。山形県の殆どがまだ海底に沈んでいた1,200万年前頃、海底火山が盛んであった。海底の堆積していた地層の中に、粘性強いマグマが上昇してきてドーム状に固まった。その後、日本列島が山地、盆地、平野などに区別される数十万年から数万年前にかけて地表まで隆起した。その後、ドーム状の岩塊を覆っていた堆積物、さらには周りの柔らかい地層、泥岩や凝灰岩が徐々に浸食され、山裾に堆積して円錐形の山になったと考えられている。結果として、安山岩や流紋岩など硬い岩山が浸食から取り残されて孤立した姿になった残丘（モノドノック）と言われている。萬松寺口からの登りで階段状の急な登りを過ぎ、山頂に近づくと岩稜が現れ、この上にコースが伸びている。これは岩塊を覆っていたものが浸食されて現れたドーム状の岩塊本体である。また、安山岩や流紋岩からなる山地は侵食、風化が遅く土壌ができ難く、乾燥気味になる。このような環境に育つのが松だという。千歳山全山をアカ松が覆っていたことも納得できる。

千歳山の名称は1,300年前、中納言藤原豊充の娘、阿古耶姫を愛した名取左衛門太郎との悲恋物語に由来する言い伝えが残っている。名取左衛門太郎はこの山の老松の精であったが、切り倒されてしまう。その跡に若松を植え「千歳千歳折る勿れ 切る勿れ 我が夫の宿る木なり」と詠われたことが「千歳山」の由来であり、その松が「阿古耶の松」と呼ばれるようになり、山頂にその碑が建っている。また、1356年、山形開城の祖である斯波兼頼が山形城築城の際、城正面に当たる山、今日の千歳山から城の配置を見定め、西面山麓に稲荷神社を再建し千歳万歳（せんざいまんざい）にかけて天下泰平、五穀

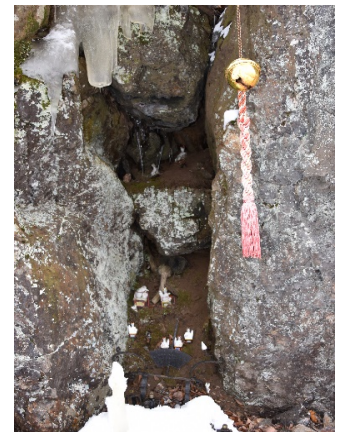


千歳稲荷神社正面登り口

豊穰を祈願したことから千歳山と呼ぶようになったとの話も残っている。

千歳山の代名詞ともなっている松だが、1982年（昭和57）頃からマツクイムシの被害が全山に出始め6,000余本が枯れたという。これらは山林内で1本ごとに切り倒し、1m余の長さに切断し積み重ね、ビニールシートで包み薬剤処理している様子が到る所で見ることができる。奥平清水口コースなどに枯れ木がまだまだ残っているが、地元有志がボランティアでアカ松の植樹も盛んに行われ、千歳山自然休養林としての保全維持に努められている。

千歳山の南に江戸時代後期から始まったとされる千歳山の土を使って焼く窯業集落で知られる平清水がある。車で千歳山山麓にある耕龍寺に向かうと、「行き止まり」の大きな文字の看板が目に入る。登山口の一つである奥平清水口に向かうには、行き止まりの禁を破って進むことになる。これは車道の行き止まりを意味するだけでなく、死後に魂が深山に向かう前



稲荷神社の使い、狐が祀られている

に留まる集落の端の山の意味も込められているように思える。

里人が亡くなると霊は、近くの端山（はやま）と呼ばれる美しい三角形の山に昇り、残された家族を見守る。その代表が千歳山だという。確かに千歳山の裾野には神社、寺院と共に小さな石仏が風景と溶け合っている。そして、33年後にさらに高く奥の深山（みやま）に昇って、あの世に行くと考えられている。

この「端山深山（はやまみやま）信仰」は千歳山界隈に限らず県内各地で見られる。山形は千歳山と瀧山、上山では葉山と蔵王、鶴岡の金峯山と月山または摩耶山、羽黒の羽黒山と月山、米沢は羽山と吾妻山、村山は葉山と月山などである。現代社会では、死者の霊は墓石に納まると考えられているが、それ以前は端山と深山、あの世からこの世を見守るなど結構動き回っていたと考えられていた。



深山の瀧山（1,362m）遠望

千歳山の登山口は最も人気のある千歳稻荷神社、通称岩五郎稻荷大明神参拝路からの稲荷神社（岩五郎）口である。神社という集客力に加えて幾つもの赤い鳥居潜る魅力からだろうか。千歳山公園口からのコースは直ぐに岩五郎口と合流する。五郎宗吉（平清水）口、これらのコースがジグザグに登る平均した傾斜のコースに対して萬松寺口は階段状の急坂、続いて岩稜と直線的な登りが続く。平清水集落から20分ほど歩いてからの奥平清水口は最も長い。更に、コースとコースを繋ぐ連絡路、踏み跡などもある。コースを選択し、連絡路を利用すると変化に富んだコース取りが可能である。



朝日連峰と山形市街

四季を通して千歳山に登る人の数には驚かされる。かなりの雨降りでも雪降りでも誰かに行き交うし、早朝から夕方まで途切れることがない人気ぶりである。しかも、山形限定ではなく他の市町村、遠くは県外からの方々とも会する山である。今日は2回目の声も聞かぬし、毎日登っているのかと何回か質問された。日本山岳会山形支部会員の奥方の目標が年間200回だとい

う。千歳山の北、馬見ヶ崎川を挟んで盃山がある。ここもまた市民に親しみ深い山である。高校の時、学校から近かったこともあり山岳部のトレーニングの山であった。大雪の時にはスキーを持ち出し遊びまわっていた思い出の地でもある。60余年ぶり山形に来て三冬過ぎたが、千歳山にスキーを持ち出す降雪にはまだ恵まれてはいない。 <2020/11>

日本山岳会山形支部及び会員活動記録

2020（令和2）年～2022（令和4）年3月

事務局長 河口昭俊

2020年（令和2年）

- 4月13日（月） 新型コロナウイルスの影響により2020年度支部総会を書面で実施（各議案承認）
4月から10月までの支部山行等はすべて中止
- 4月13日（月） 佐藤一広会員が第53回日本水墨画展で佳作を受賞
- 9月7日（月） 出羽三山周辺に建設が計画されている大規模の風力発電施設に対して、JAC山形支部として反対の意思表示
9月9日前田建設は「（仮称）山形県鶴岡市風力発電事業における環境影響評価法に係る手続きの廃止」を表明（全面撤回）
- 11月8日（日） 支部晩餐会改め「支部昼食会」を実施（大山公園古峯神社直会殿）

2021年（令和3年）

- 1月14日（木） 粕谷俊矩会員が著書『雲のソナチネ』を出版
- 2月15日-28日 山形100名山写真展に合わせて、日本山岳会山形支部の「学校から見える山」パネルを展示（酒田市美術館）
- 2月19日（金） 樹氷原を滑る会に代わり「湯殿山を楽しむ会」を実施
- 3月12日（金） 2020年度学校から見える山「イヌワシが見る鳥海山」を酒田市・遊佐町・三川町・庄内町に寄贈
- 4月10日（土） 新型コロナウイルスの影響により2021年度支部総会を書面で実施（各議案承認）
4月から9月初旬までの支部山行等はすべて中止
- 6月15日-21日 地元愛好家による山岳写真展に志田郁夫会員、瀬川昭会員が出展（酒田市総合文化センター）
- 7月30日-31日 粕谷会員の出版記念祝賀会を志津温泉つたやで開催。翌日姥ヶ岳登山。
- 9月24日-25日 山岳古道調査事業「六十里越街道調査」を実施（湯殿山～志津～四ツ谷川）
- 10月2日（土） 公益清掃登山を実施（鳥海山 滝の小屋～河原宿） 芋煮会は中止
- 11月6日-7日 上山温泉月岡ホテルにて支部晩餐会を開催。6日大岡山登山、7日三吉山登山

2022年（令和4年）

- 年明けから新型コロナウイルス感染症の拡大により行事等中止
- 3月3日（木） 山形市立楯山小学校にて「2022学校から見える山-朝日連峰・月山・葉山」の贈呈式。楯山小学校、高瀬小学校、千歳小学校、鈴川小学校の児童に寄贈

<編集後記>

どうにか発行にたどりつくことができました。執筆者だけでなく多くの会員の方々の手を煩わせました。感謝申し上げます。コロナの影響で昨年度に続き今年度も行事の中止や内容の変更を余儀なくされましたが、その中でも実施できたことの記録をまとめることに主眼をおきました。「あの頃はコロナで大変だったなあ」と思い返せる 때가早く訪れることを願いながら。

2022年3月 会報担当 日向稔也